

7 車で近所に出かけるとき、ヒヤリとしたことがありますか？

1

★今日の集まり・早わかり★

目的

運転者なら誰でも経験する「ヒヤリ体験」を話し合い、原因を探り合うことで、事故にあわないためには何が必要かを理解し合い、あわせてヒヤリ地図づくり（レベル2、レベル3）への動機づけにします。

効果

- 運転力** 🚗 危険についての知識と危険予測力が上がる。
- 気づき力** 🚫 自分の弱点に気づく（自己客観視）。
- コミュニケーション力** 🗣️ 仲間との交流でいきいきした気分になる。
コミュニケーション力が上がる。
- 脳機能** 🧠 話し合いを通じて脳が活性化する。

時間割の目安

▼ 約2時間（準備、あとかたづけを除く）

○準備	10分
①リーダーあいさつ	10分
②交通脳トレ.....	10分
③ヒヤリ体験を生かすための 話し合い（途中休憩あり）	1時間35分
④リーダーまとめ	10分
○あとかたづけ	10分



あらかじめ用意しておくこと

《リーダー・班長》

- ご自身のヒヤリ体験を用意しておきましょう。どのような注意をしていたら、そのヒヤリ体験をしないですんだかも考えておきましょう。
（P88～89の「ヒヤリ体験の例と防ぎ方の例」を参照）
- 「今日、話し合うための台本」、「今日、覚えてほしいこと」をよく読んでおきましょう。

《教材など》

- リーダー・班長用：班長用にP80～91をすべてコピー（班長の人数分）
レポート用紙など（まとめるため） ホワイトボードか黒板
- 受講者用：「ワークシート」（P81～82）のコピー（人数分） ※白黒コピー可
「今日、覚えてほしいこと」（P83）のコピー（人数分） ※白黒コピー可
別冊子「交通脳トレ3ヵ月」（2枚1組）のコピー（人数分） ※コピー方法は問題集参照
お茶（ペットボトル）（人数分）
筆記用具（持参していただくか人数分用意）

お名前

問1 あなたの車の運転について、あてはまるところに○をつけてください。

1. 毎日、運転をする
2. 2日に1度は運転する
3. 週に1回か2回は運転する
4. 月に1回か2回運転する
5. 年に数回しか運転しない
6. その他 ()

問2 夜の運転について、あてはまるところに○をつけてください。

1. 見えにくいので、なるべく運転しないようにしている
2. 運転するが、スピードをひかえめにしている
3. 夜だからといって、とくに気にしていない
4. その他 ()

問3 普段、車でよく行かれるところはどこですか？
あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 近くのスーパーや商店
2. 病院などの治療施設
3. 親戚・友人・知人宅
4. 市役所などの公共施設
5. その他 ()

問4 車を運転していて、ヒヤリとした体験はありますか？

1. ある
2. ない

問5 あなたがよく通るところで、ここは事故が起きそうで危ない、と思われる場所は？

1. ある
2. ない

問6 ヒヤリとした体験があれば、どんなヒヤリだったか、思い出してください。

■ヒヤリとした相手は？

1. 四輪車 2. 二輪車 3. 自転車 4. 歩行者 5. 電車
6. その他 ()

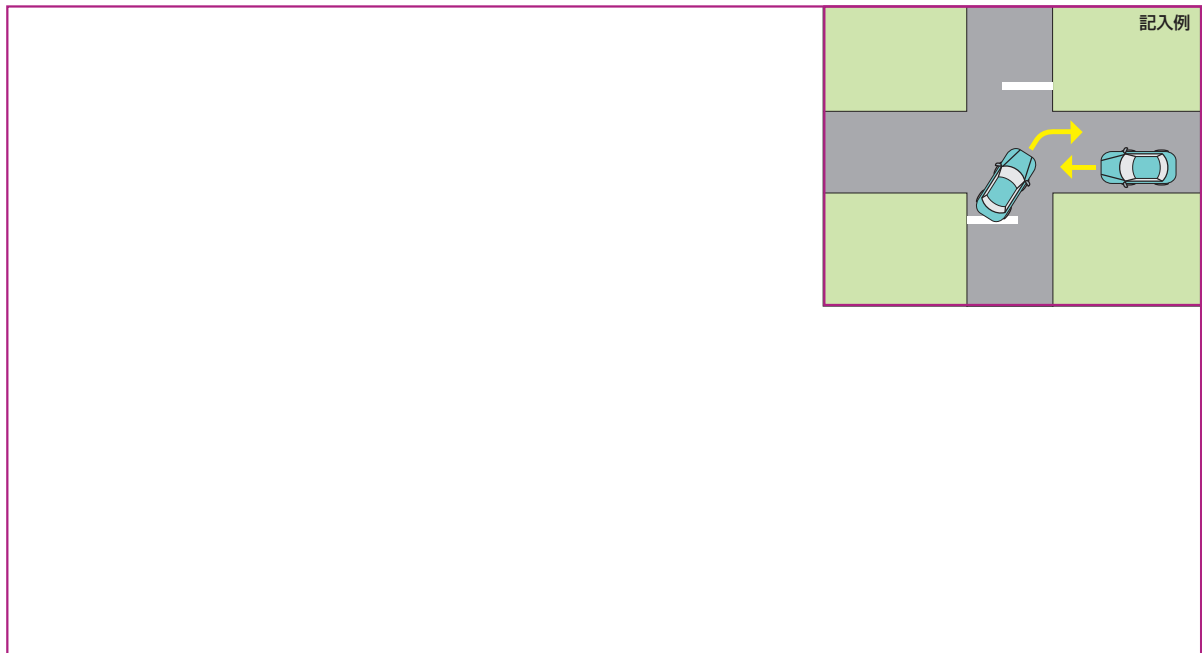
■ヒヤリとした場所は？

1. 信号のある交差点 2. 信号のない交差点 3. 交差点以外の道
4. その他 ()

■そのヒヤリの原因は？（あてはまるものすべてに○）

1. あなたがうっかりしていた 2. 相手がうっかりしていた
3. あなたがよそ見していた 4. 相手がよそ見していた
5. あなたが相手を見落とした 6. 相手があなたを見落とした
7. あなたが ()
8. 相手が ()

あなたのヒヤリ体験を図にしてみましょう

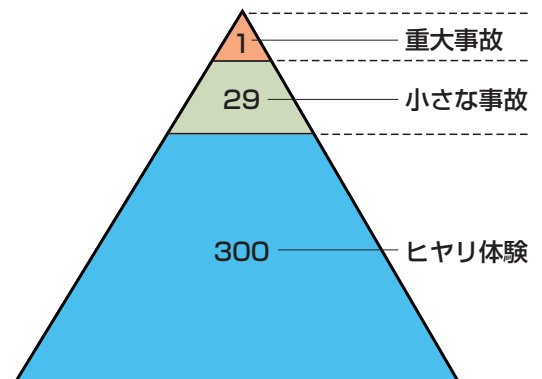


小さなヒヤリをなくすことが事故防止につながります

アメリカの保険会社に勤めていたハインリッヒという人がいました。ハインリッヒは保険の対象となる事故について、重大事故と小さな事故、ヒヤリですんだケースについてその比率を調べたところ、重大事故1つの後ろには小さな事故が29、その後ろには幸い事故にはならなかったヒヤリが300あるという法則を見つけました。これを「ハインリッヒの法則」といいます(図1)。

ヒヤリ体験を大事にして事故対策を考えれば、小さな事故は防げますし、小さな事故のうちに安全な対策をほどこしておけば、重大事故は防げます。

図1 ハインリッヒの法則



高齢ドライバーに多いヒヤリ体験は

「ハインリッヒの法則」でも明らかなように、重大な事故の後ろには小さな事故がかなりあり、また小さい事故の後ろには数多くのヒヤリがあるのです。ヒヤリ体験の多くは事故になったのと同様のケースで起きていると考えられます。

データをもとに、高齢ドライバーの事故の特徴をあげてみます。

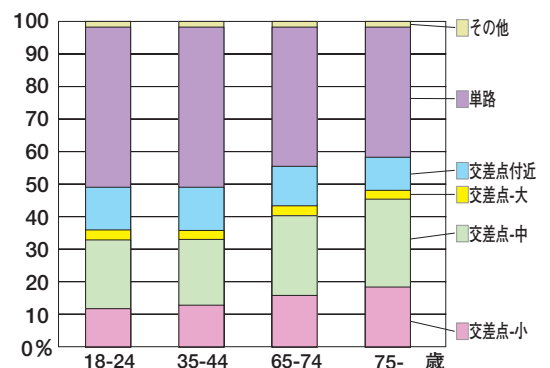
1) 交通事故の半数以上が、交差点またはその付近で起こっていますが、年齢層の高いドライバーほど小、中規模の交差点での事故が多くなっています(図2)。高齢者が比較的家の近くで運転していることが多いためと考えられます。

2) 車両相互の事故では、^{であ} ^{がし}ら 出会い頭や右折するときの事故の比率が高くなっています。

交差点に進入するときや、そこで右折するときには、たくさんの情報をいっぺんに取り入れ、処理しなければならず、高齢になるとそれがちょっと苦手になることを反映しているものと考えられます。「信号に気づかなかった」というのでは大変なことになります。






3) 衝突相手を見落とした理由を調べてみると、高齢ドライバーの中でも、とくに75歳以上のドライバーでは、相手が「見にくかった」(約21%)ということよりも、「いるはずがないとの思い込み」(約47%)で、あえて見ようとしなかったという理由が多いようです。

図2 事故が起きた道路(道路形状)



「イタルダ・インフォメーション」68号
(財)交通事故総合分析センター 2007年

今日、話し合うための台本

進める順序	リーダーと班長にやっていただくこと
<p>○準備 10分</p>	<p>※参加者の人数に合わせて、あらかじめリーダーは班長を決めておく。</p> <p>①班を編成（5～8人）する。 ②机やいすを並べかえ、班ごとに着席する。</p>
<p>①リーダーあいさつ 10分</p> <p style="text-align: center;">▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼</p>	<p>♣ リーダー（班長の代表）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>■班ごとに自己紹介</p>	<p>♠ 班長 ご自分を含め、全員に自己紹介をしてもらう。 （お名前、お住まいの地域、運転歴、最近車で出かけた所など）</p>
<p>②交通脳トレ 10分</p> <p>■「交通脳トレ」問題 2枚配布</p> <p style="text-align: center;">▼</p>  <p style="text-align: center;">▼</p>	<p>♠ 班長</p> <p>①「交通脳トレ」問題2枚を配る。 ②腕時計（秒針付き）で、問題終了までの時間を計り用紙に記入する。</p> <p>▼1枚目 「文字ひろい」または「まちがい探し」 ▼2枚目 「計算と音読」</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

話し方の例

このまま読みあげるだけで講座を進めることができます

ポイント



リーダー

- 今日は車を運転中のヒヤリとした体験談を例に、どうしたらそのヒヤリが防げるかを話し合ってください。
- 私自身は、こんなヒヤリ体験があります（リーダーご自身にヒヤリ体験があれば、それをできれば図に書いてお話しください※）。
- ヒヤリ体験を何度もしているうちに大きな事故になることもあります。ヒヤリを繰り返さないためには、なぜヒヤリとしたか原因を明らかにする必要があります。そうすれば同じ失敗はしなくなります。人生も仕事も運転も同じです。ヒヤリ体験を勉強しあうことで、事故を防ぐことができますようになります。
- みなさんの中で、運転中に事故になりそうでヒヤリとしたことのある方、手をあげてみてください。近くに出かけたときでなく、長距離ドライブのときでも結構です。では、班に分かれ、班長さんや私が進行役になって話し合います。ぜひ積極的にご発言ください。

運転免許を持たない方も参加している場合の追加説明の例

- 四輪車を運転されない方は、歩いているとき、原付や自転車で走っているとき、車の助手席に座っているときのことを考えて、挑戦してください。いろいろな立場から意見をいい、理解し合うのはとても大事なことです。



班長

- 最初のトレーニングは「交通脳トレ」です。この問題は全部で3ヵ月分あるのですが、今日はそのうちの1日分（2枚）をやっていただきます。
 - 1枚目の問題では、安全運転に大切な、運転中にとっさに危険を察知する能力を支える、脳のトレーニングを行います。
- 2枚目の問題では、簡単な計算問題（※）と小説などの一部を音読していただき、脳を活性化します。
- 2枚1組の問題を少なくとも3ヵ月間続けて行くと、効果が出てきます。
- 2人1組になり、問題にかかった時間を腕時計（秒針付き）で計ります。1枚目の問題から始めます。「スタート」の合図をしたら、時間を計ってください。では、スタートします。（2枚目の問題も同様に行う）

★準備の必要上、初めて実施するときは事前に班長を決めておきますが、次回からは自薦、他薦で班長を決めるのもよいでしょう。

★参加者のみなさんに、トレーニングの目的、内容を理解してもらうことが大切です。

※ヒヤリ体験例は、P88～89を参考にしてください。

★趣旨説明ではリーダーは一方的に話すのではなく、参加者と話し合いをしながら、意見や提案を受ける形で進める方がよいでしょう。重要なことは、参加者上から命じられてそれを行うのではなく、自分たちのために、自分たちの企画で行われているのだと実感してもらうことです。

★お互いのことを知ると話がスムーズに進みます。

★まず、「交通脳トレ」から始め、脳の動きを高めます。

★開発者は、脳のトレーニングで知られる東北大学の川島隆太教授です。

※やさしい問題をすばやく正確に計算することが、脳を活性化させます。

★時間の計り方を練習してから始めましょう。

*「交通脳トレ」の詳しい情報は、別冊子「交通脳トレ3ヵ月」をご覧ください。

進める順序

リーダーと班長にやっていただくこと

③ヒヤリ体験についての話し合い

1時間 35分

■「ワークシート
みなさんへの質問」
2枚配布
(10分)

■班ごとの話し合いと
まとめ (問 1～3)
(20分)

- 問 1 運転の回数
- 問 2 夜の運転
- 問 3 外出先

☕ 休憩 (10分)

■班ごとの話し合いと
まとめ (問 4～6)
(40分)

- 問 4 運転中のヒヤリ体験
- 問 5 危険な場所
- 問 6 ヒヤリ体験の具体例



リーダーと班長にやっていただくこと

♠ 班長

- ①「ワークシート みなさんへの質問」2枚を配り、趣旨説明をする。
- ②参加者に記入してもらう。



♠ 班長

- ①「ワークシート みなさんへの質問」の問 1～3の問題を読みあげ、参加者 1人ずつに書いた内容を発表してもらう。
- ②発言内容を簡単にメモする。
- ③全員の話が終わったら、メモをもとにまとめる。

♠ 班長

- ①問 4～6の問題を読みあげ、参加者 1人ずつに「ワークシート」に書いた内容を発表してもらう。
- ②発言内容を簡単にメモする。
- ③ヒヤリ体験として興味深い意見を発表した方の例を取り上げて突っ込んで話し合う。
- ④全員の話が終わったら、メモをもとにまとめる。



話し方の例



- 「ワークシート みなさんへの質問」で、今日のテーマである、ヒヤリ体験と、どうすればヒヤリとしなくてすんだかを話してもらおうきっかけをつくります。
- お手許の用紙に、ご自身の答えを整理してお書きください。みなさんのご記入が終わったら、話し合いに移ります。

問 1～3



- さんから右回りに話していただけますか？
[全員が話し終わったら]
※班の人たちの傾向をまとめます。
 - ・車の運転の回数——多いものから順に
 - ・夜の運転に対する考え方——みなさんに共通する内容、1人だけしか意見がなかったが大事なものを改めて紹介
 - ・車でよく行く所——多い場所から順に

問 4～6 で「ヒヤリ体験」について発表



- 最近の経験でも昔の経験でも、どんなヒヤリ体験でもいいです。運転していてヒヤリとしたこと、ハッとしたことのある方、手をあげてみてください。
- 私にはこんな体験があります。(※①)
- では、みなさんのヒヤリ体験を聞かせてください。Aさんから順にお願いします。
<体験談を話してもらう理由>
 - ・それぞれのヒヤリ体験を全員で共有できる。
 - ・同じようなヒヤリ体験をしている話を聞くと共感できる。
 - ・違ったヒヤリ体験談で新しい知識を得る。
- ありがとうございました。どれも貴重な経験です。
どうしていたらヒヤリハットせずにすんだと思いますか？
- それでは時間の関係で、Cさんの体験を例にもっと突っ込んで話し合ってみましょう。(Cさんにヒヤリ体験を図にしてもらい、どうしてヒヤリとしたか説明してもらおう)(※②)
Dさん、あなたはどう思いますか？
CさんやDさんと違う考えの方はいますか？ Eさんはどうですか？

ポイント

★四輪を運転しない参加者には

- ・原付、自転車の方/ワークシートの問題すべて
 - ・歩行者の方/歩行中の体験をもとに問3～問6
 - ・助手席の立場から答える方/問2～問6
- を記入してもらってください。

★話し合いでは、班ごとに班長が進行役になって、参加者の意見を引き出すことが大切です。

★参加者1人ずつに意見をもらうことで、お互いの考え方を知り、コミュニケーションを深めます。

★ただ聞くだけでなく、話の内容をメモし、全員の発言が終わったら、どんな意見が多かったか、進行役として興味深い意見は何だったか、まとめることもポイントです。

自分の「ワークシート」の選択肢に、答えが出るごとに正の字を書いていくと集計が簡単にできます。

※①リーダーや班長は、参加者の話題のきっかけづくりに、運転中にご自分がヒヤリとした経験を話してください。

※②ホワイトボードか黒板(なければ模造紙)に、P88～89を参考に道路の図を書いて説明してもらおうとよいでしょう。

- ・時期、時間、場所
- ・ヒヤリとした相手、ヒヤリとした原因

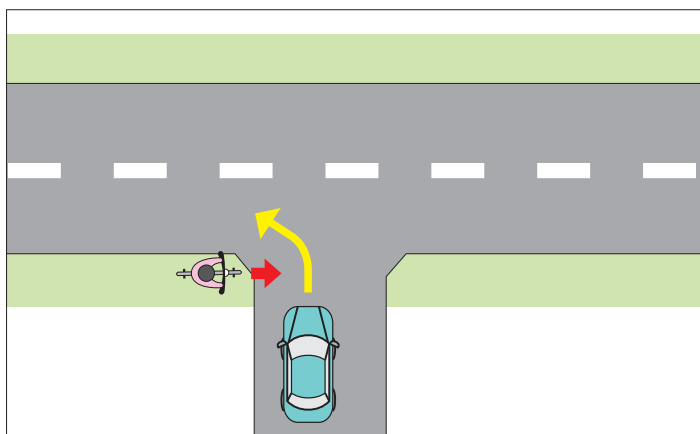
進める順序



参考 ヒヤリ体験の例と防ぎ方の例

① 朝8時頃、狭い道路から
広い道路へ出るときのヒヤリ

広い道路を走ってくる車の流れが途切れたので、左折しようと動きだしたら、自転車が急に車の前を横切った。あわててブレーキを踏んだ。動き始めたところで、速度が出ていなかったことと、自転車が避けたので、ヒヤリですんだ。



原因

本線に合流できるかどうか右の方ばかり見ていたので、左から自転車が来たのに気がつかなかったのです。

たしかに1方向だけ（このケースでは右方向の本線）を長く見るのは危険です。左側で何が起きているか、わからなくなるからです。これが一番の原因ですが、次のことも考えてください。

車の途切れるのを待っていたとき、あなたの前を歩行者や自転車が横切りませんでしたか？ そのとき、こうした自転車や歩行者を注意しなければならぬ危険と意識して考えていれば、あなたが動き出すときにも、横切ろうとする自転車や歩行者がいないか、もう一度確認できたはずです。

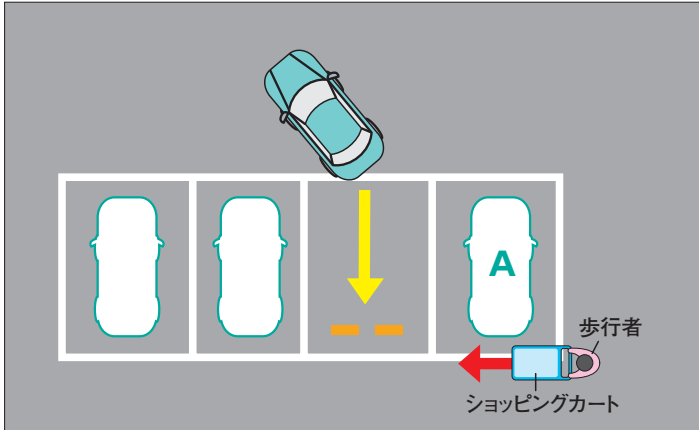
ところで、ヒヤリとしたのは、相手も同じです。どうして車の前を横切れると思ったのでしょうか。参加者の中に似た体験を持つ自転車利用者がおられたら聞いてみましょう。



② スーパーマーケットの駐車場でのヒヤリ

バックで駐車しようとしたら、ガツンと何かに当たった。あわてて降りたら、ショッピングカートだった。

人に当たらなくてよかった……。

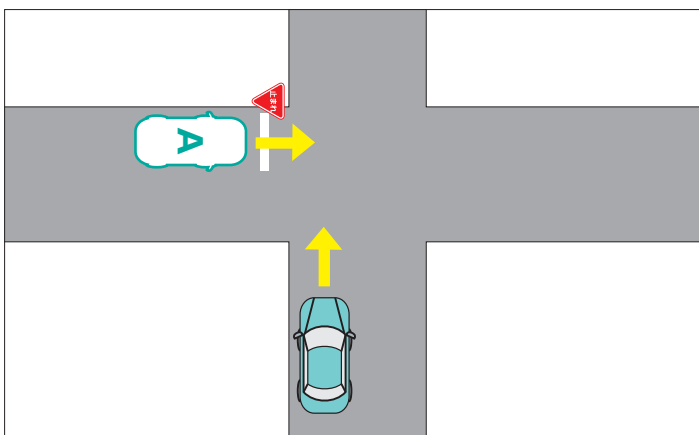


原因

スーパーなどでは、自分の車のトランクのところまでショッピングカートを押してくる人が多いものです。そうした場合、駐車中の車の後ろを通ってくる場合もあります。Aが背の高いワンボックスカーだったりすると、死角に入って見えない場合も多いのです。駐車スペースを見つける際、そうした人がいないかまで気をつける必要があります。

③ 広い道を走っているときのヒヤリ

相手は一時停止標識があるので、当然止まって待つと思ったら、停止せず、そのまま交差点に飛び出した。こっちは急ブレーキ！



原因

A車のドライバーが一時停止の標識を見落としてしまったり、あるいは気がついていて本人は停止したつもりでも、実はズルズルと前に飛び出してくるケースなどがあります。「停止の標識があったら必ず止まる」などとは考えず、「止まらないこともある」という気持ちで、ブレーキに足をかけて細心の注意を払うことも必要です。

★3つの例を参考にして、「ワークシート」問6のヒヤリ体験を図にしましょう。

進める順序

リーダーと班長にやっていただくこと

■ 班の代表の発表
(15分)

- ♠ 班長
それぞれの班を代表して、話し合いで出た意見と感想を発表する。
- ① 代表的なヒヤリ体験例をホワイトボードか黒板（なければ模造紙）に書き、みなさんに示す。
 - ② それをもとに説明する。



④ リーダーまとめ
10分

■ 「今日、覚えてほしいこと」1枚配布

- ♣ リーダー（班長の代表）
- ① リーダーとして今日の話し合いについて感想を話す。
 - ② 「今日、覚えてほしいこと」1枚を配り、説明した後、参加者に読んでもらう。
 - ③ 今日のまとめをする。



【ご注意】 次回の集まりをご計画の場合は、最後にその案内や班長の人選を忘れないようにしましょう。

○ あとかがたづけ
10分

話し方の例



- 代表的なヒヤリ体験を、班の代表（班長でなくてもよい）に発表してもらいます。他の班の意見をお互いに知ること、安全の知識を増やすことにつながります。



- 交通事故はいくつもの原因や条件が重なると起きます。一時停止の標識をうっかり見落として交差点に入っても、左右からくる車や自転車、歩行者がいなければ事故になりません。

車や自転車、歩行者がいても、ある程度（たとえ5センチでも）離れていれば、あるいは相手が気づいて対応してくれれば、事故になりません。そのかわりドキリとしたりヒヤリとしたりします。

- 今日は、ヒヤリ体験についてみなさんに話し合ってくださいましたが、これは事故を減らすために大事な意味があります。

「今日、覚えてほしいこと」を見てください。「ハインリッヒの法則」というのがあります。1件の重大な事故の背景には、29件の小さな事故があり、29件の小さな事故の背景には300件のヒヤリ体験があるという、産業災害のデータです。つまり、大きな事故を起こさないためには、小さなヒヤリ場面をなくしたり、それをもとにみなさんで注意しあうことが重要です。

- ヒヤリ体験は、事故になってもおかしくない状況で、幸いにも事故にならなかった、あるいは事故を回避できたケースを表わす言葉です。したがって、ヒヤリの原因は交通事故の原因とほとんど変わりません。事故が起きたときの運転者の違反で一番多いのは「うっかり」「よそ見」「見落とし」「発見遅れ」「危険と思ったものを注意し確認するのを怠った」「1方向だけ長く見ていた」「見えない所の危険を考えなかった」などのように、「見る」ことに関係したものです。

- 資料「今日、覚えてほしいこと」は、指名させていただきますので、順番に読みあげていただけますか。（※）

- ヒヤリ体験を繰り返さないためには、なぜヒヤリとしたか原因を明らかにする必要があります。そうすれば同じ失敗はしなくなります。人生も仕事も運転も同じです。

「失敗は成功の母」といいますが、なぜ失敗したか原因を考えることが成功につながります。

ポイント

- ★参加者はトレーニングの後、今日のまとめを期待しています。リーダーの方は「今日、覚えてほしいこと」を配り、今日のポイントをまとめて伝えましょう。

- ★感想の中で具体的な参加者のお名前などをあげてお話しし、リーダーとしての感想をつけ加えていただくと、より励ましになります。

- ※時間がなければ「ここでは読みあげませんが、お帰りになってからお読みいただけると幸いです」とつけ加えてください。